



～文化遺産を訪ねて歩こう!!～

4月号から来年3月号までの上尾歴史散歩は、『あげお歴史探検マップ』をもとに、市内の文化遺産を訪ね歩く市内の散策コースを紹介します。7～9月は、平方・大石地区周辺のコースを巡ります。



今年の「平方のどろいんきよ」の様子

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月
- 3月

今に伝わる祈りの文化

荒川周辺に花開いた文化

人と文化が繋いだ町

街道に刻まれた歴史



荒川の風を受けて平方河岸跡から畔吉へ

「橋神社」③を後にして荒川の方向へ進むと、左手に県指定無形民俗文化財「平方祇園祭のどろいんきよ行事」(平方のどろいんきよ)の舞台である「八枝神社」④が見えてくる。

神輿を泥だらけにして転がすという珍しい行事として知られる「平方のどろいんきよ」は、悪疫退散などを祈願する夏祭りである。祭りは、八枝神社を出発した神輿が地域を回る

「渡御」が中心であり、どろいんきよ行事は民家の軒先などに設けられた神酒所で行われる。渡御の途中で神輿を立てて「山車」に見立て、その上に歌舞伎役者に扮した若者を乗せて曳いていく様子も見どころである。

また、祭りに合わせて演奏されている「武州平方箕輪囃子」は、「タカウマ」と呼ばれる車の付いた移動式の木枠に太鼓を載せて演奏するという特徴があり、市無形民俗文化財に指定されている。

荒川沿いのサイクリングロードを北に進み、「諏訪神社」⑤に向かう。ここでは、「畔吉の万作踊り」「畔吉さらさら獅子舞」の二つの伝統芸能が上演される。万作踊りは、かつて埼玉県内全域で見られた代表的な民俗

芸能であり、畔吉地区では「銭輪踊り」「下妻踊り」「手拭踊り」「伊勢音頭」「口説」の五つの演目と、「源太踊り」が伝承されている。現在は諏訪神社の春祭りでも上演されているが、元々は農村における娯楽芸能として踊られ、生活に密着していた。

一方、さらさら獅子舞は、10月の例大祭で上演され、一人が一頭の獅子に扮して三頭一組で舞うことから「三匹獅子」と呼ばれる。獅子が自ら持ちながら打つ太鼓や、四隅の「花笠」と呼ばれる子どもたちが擦って演奏する「さらさら」、囃子の篠笛の音色が響き、華やかに上演される。いずれの芸能も、近年では地元の子どもたちを含む、幅広い年齢層の人々が参加する伝統行事として行われている。

上尾道路を越えて東に進むと見える「畔吉東部共同墓地」には、市指定文化財である「地蔵像板石塔婆」と「木造阿弥陀如来立像」⑥がある。いずれも鎌倉時代から南北朝時代のもので、この地の古い歴史を物語っている。

次号では、上尾市の北西端である藤波地区へと進もう。

(上尾市生涯学習課)